

大分県臼杵市 竹ぼんぼり発祥の地

# 竹ぼんぼり 宵

たけよひ

日本夜景遺産認定

令和四年  
十一月五日（土）・六日（日）

竹ぼんぼり、オブジェの幻想的な灯り

時代絵巻のような般若姫行列

幻想的な美しい臼杵の城下町で

秋夜の散歩をお楽しみください。

# うすき竹宵とは？

大分県の東海岸に位置し、国宝の白杵石仏や醤油の製造や醸造、至る所に古き良き街並みが残る城下町、白杵。

秋夜の莊厳な祭り「うすき竹宵」

元々は竹山の保全を目的として始まりました。竹ぼんぼりやオブジェの灯りが彩る中、白杵に古くから

伝わる「真名長者伝説」般若姫の御靈が両親と娘の待つ白杵へと里帰りを表現した、「般若姫行列」の美しさは圧巻です。幻想的な世界に酔いしれてみませんか？



## 【真名長者伝説】

白杵の誇りである「白杵石仏」は炭焼小五郎が奈良の都から来た玉津姫と結婚した事で後に真名長者と呼ばれる大金持ちになりました。

りこの真名長者が造つたと伝えられています。

二人のあいだに産まれた娘は般若姫といいその美しさと気品は世間の評判となっていました。般若姫の噂を聞いた時の朝廷は、

姫を妃として都へ差し出すように使者を遣わしますが、長者は一人娘と言う理由でこれを拒み、代わりに姫の姿を書き写した「玉絵箱」を献上しました。献上された玉絵箱を見て恋に落ちた若者がおりました。それは後の用明天皇、当時は橘の豊日の皇子でした。

皇子は般若姫に逢うため草深い白杵に下り、牛飼いに身をやつして長者のもとに身を寄せ、やがて般若姫と結ばれました。しばらく幸せな時を過ごしますが、皇子は朝廷に呼び戻され懷妊していた般若姫を残して都へと帰っていきました。

しばらくして般若姫は玉絵姫と言うかわいい女の子を出産します。そして、般若姫は産まれたばかりの玉絵姫を残し、皇子の待つ都を目指して白杵の港から船出します。

ところが、途中嵐に遭い、帰らぬ人となりました。悲しんだ長者夫婦は、般若姫の供養のため玉絵箱の里帰りを願い出て、朝廷もこれを許されました。亡き般若姫の姿を描いた「玉絵箱」は長者夫婦にとっては娘。玉絵姫にとっては母そのものだったのです。

暮れ早い秋の陽はとっぷりと暮れ、里人たちは竹に明かりを灯し暗くなつた夜道を明るくしました。

うすき竹宵実行委員会事務局  
(臼杵市役所産業観光課内)

●詳しいお問い合わせは  
大分県臼杵市大字臼杵72番1 TEL0972-63-1111(内線4022)  
<http://www.takeyoi.com/>

「うすき竹宵」ボランティアを募集しています。

